

令和4年1月18日

神奈川県知事 黒岩 祐治 様

神奈川県ボランティア活動推進基金審査会
会長 中島 智人

令和4年度実施分ボランティア団体成長支援の対象となる取組の
決定について（答申）

令和3年9月22日付け県サ第1224号をもって諮問のあった標記について、
別紙のとおり答申します。

(別紙)

令和4年度実施分ボランティア団体成長支援の対象となる取組の決定について

1 選考した事業

受付番号 4-4-2

団体名 特定非営利活動法人CRファクトリー

事業名 かながわ組織内コミュニケーション回復・強化事業

2 選考日

令和3年12月15日(水)

3 審査会のコメント

コロナ禍が非営利組織の運営に及ぼしている影響について調査を実施され、その結果から見えてきた具体的な課題に対応を図ることで、「強くあたたかい組織」を作り出していく支援の提案でした。これまでも団体は、県内外でボランティア団体の組織運営力向上に関する事業を多く実施されてこられており、その豊富な知見が県内団体の成長支援に活かされることが期待出来、また、コロナ禍の中での組織強化やICT対応の重要性が認められたことなどから採択しました。

提案では、「良好な組織をつくるための共通認識を団体内で持つ」ことを事業の目的に挙げられており、質疑応答で、これが達成出来れば自ずと事業推進力が高まっていくとの説明を受けました。しかしながら、組織内のコミュニケーション活性化の支援を受けることが、具体的な事業や活動の推進にどうつながって行くのか見えにくい部分が残りました。また、事業支援についての要望があった場合、相談には応じられるが、伴走支援まで踏み込むことは難しいとのご説明もありましたが、支援を通じて、実際に動いていける組織が生み出されることが期待されるところです。

そのためには、連続講座・伴走支援・アンケート&診断の3つを効果的に連動させながら、コミュニティキャピタル診断や伴走支援を柔軟に運用していく

ことが望まれます。これまで団体が構築してきた診断の枠組みに捉われ 過ぎることなく、県内団体のそれぞれの特性や事情に即した支援を行うことにより、各団体の組織や事業の成長が図られることを願っています。

この事業により、団体同士の横のつながりや、団体支援の基盤が構築されること、その結果、事業終了後も県内団体が成長し続けられる環境が整えられることを期待しています。